

〔『法学新報』第21巻4(241)号 明治44年4月3日〕

○中央大学経済学会 本会は去る三月十八日午後五時より中央大学第七講堂に於て討論会を開催せり清水哲二郎氏起つて開会の辞を述べ本日討論会を紹介し痛快なる論戦あらんことを希望せり討論題の一は保険官営の可否、二は中等教育に経済学を加ふるの利害なき劈頭第一に積極論者石津専一氏起て保険の性質より社会に及ぼす効果、危険予防と行政機関との関係を説き社会政策に論及し之か官営を主張し之を駁して消極論者五賀氏は危険は社会の進歩に伴ひ増加するものなり故に官営となしたりとて之か予防にさしたる効果なしと積極論者前田氏起て現代の我国情としては営利の目的に出でざる限りは官営を主張し換言すれば理想としては官営を望むと殊に小額保険、労働保険の如きは社会的政策事業として当然国家の行ふべき事業にして又之に行政機関を利用し或は社会危険の統計を得るには最便利にして其宜しきを得へしと論述せり之に対し消極論者清水氏は保険事業は専門的事業にして行政機関の之に当り其宜しきを得ざることは近き歴史の証明する所なり小額保険の如きを積極論者の言の如く地方郵便局をして之に当らしむるは其事業の性質上

不当なること云ふ迄もなく特に現今法律により株式会社をして其任に当らしむる以上は不安の点なければなり故に之か事業は宜しく任意的たるを要す政府は之か保護奨励の位置にあるべきなり故に發達の必要ある小額保険、労働保険に対しては適當なる組合を設くるを以て可とす其他の保険事業は現代の儘にて差支なしと論す大久保、上野、向山氏共に之に反対し各自抱懐する所を吐露し遠藤氏は消極論者として政府か多数の事業に干渉すること、保険金運用の困難、官吏の在職年限の短きに依り事業に精通せざることを述べ独逸の実例を引き之か不適當を論及せり甲論乙駁意氣當るへからざるあり最後に桑田博士拍手の裡に登壇し本問題の論結は延期とし条件的反対論(消極)として次の如く論述せられたり一般の保険業者に対しては特別重税を課すべきこと其理由とする所は土地に付ては社会發達に伴ひ地価の騰貴するに際し特別課税を徴す故に衛生危険予防の完備の結果危険減少に伴ひ保険会社の利得は不当なり故に政府は保険業者の自然的利得に対し重税を課すべきを以て適當とす云云以て第二問に移り積極論者五賀氏、上野氏、前田氏、大久保氏は現今の中学校令に当分の内之を欠くことを得との規定は之を廢して直に之を必修科とせよと言ひ前田氏は其内容を説き法制經濟は中等教育に於て課すべき必要に迫れりと亦五賀氏は其理由を論し来り論し去り消極論者遠藤氏、清水氏は之か必要は充分認めれ共修業課目の過多なると共に法制經濟は専門的学科として課するは不適當なり但他の学科と併せて其概要を講ずるの適切なるを主張せり終に臨んで桑田博士は本問題提出の理由を説

明して曰く現代の国民精神危険思想の予防方法如何との理由の下に本題考究の必要を認めたりとの前提をなし危険思想は少年時代に於ては之を認めず亦老年級に於ては思想の確実たるを以て容易に思想を動かさることなし然るに中年時代に於ては思想薄弱にして目前の利益の爲めに是非を動かさるること少からず之か予防法としては須く中等教育を受くる時代に於て経済思想を含め政治的觀念を養成し容易に思想を動かされざらしむるに至らしむること肝要なり例へば社会主義者に加はるか如きは全く確実なる経済的思想を欠けるより因て来る所なり之か或は誤りて破壊主義者となるも亦皆然り此理由を以て経済学研究の必要に迫れること現代社会に於て明白なりと説述し最後に之か普及方法として該科に精通せし者をして各府県に一名若くは数名を派遣し所謂巡回講話をなすこと最も適当なり徒らに唯知らしめず見せしめすとすは亦以て危険なり然して現今に於ては其人を得るに困難なる点尠からすと云ふ者あれとも当局者に於て此点に重きを置くに於ては之か実行は敢て難事にあらざるなり故に強制的に経済学科を課することを規定し以て大義名分を重んぜしめ経済的思想を発達せしめ健全にして確実なる青年を養成することを望む云云右終りて懇親会に移り歓談笑語時の移るを知らず午後十時漸く閉会したり（委員報）